学校番号	３０２０

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	新編 数学Ⅰ　（実教出版）						
副教材等	アクセスノート 数学Ⅰ 新課程版（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業は、内容の理解、問題演習、発表という形で進んでいきます。
・補充プリントも追加していきますので、整理用のファイルを準備してください。
・問題集も授業の進度に合わせて、解答していってください。
・問題を解くときにはじっくり考えて、丁寧に、初めて見る人であっても考え方が理解できるように途中式を省略せずに完成してください。
・定期考査ごとにノート、問題集を提出してもらいます。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
図形と軽量、集合と論証及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】
図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】
数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	図形と計量、集合と論証及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりする。表や図やグラフに着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。	図形と計量、集合と論証、データの分析を通して数学の良さを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	図形と計量	三角比 三角比の性質 三角比の拡張 正弦定理 余弦定理 三角形の面積 空間図形の計量	a:鋭角、鈍角の三角比の相互関係について理解している。三角比の表を使いこなすことができる。正弦定理・余弦定理を使いこなすことができる。 b:具体的な事象について三角比を用いて考察することができる。平面図形や空間図形において、適当な三角形に着目して正弦定理や余弦定理を用いて計量することができる。 c:三角比を日常の事象や社会の事象などの問題解決に活用しようとする。正弦定理や余弦定理を用いて、三角形の決定条件との関係や残りの要素を求めることができる。	定期考査 小テスト	定期考査 補充プリント レポート	ノート 問題集 振り返りシート レポート 発表

2学期	集合と論証	集合 命題と条件 逆・裏・対偶	a:必要条件・十分条件などや逆・裏・対偶などの用語やつき方を理解している。対偶、背理法を用いて命題を証明することができる。 b:ド・モルガンの法則を理解し、問題解決に利用することができる。 c:必要条件、十分条件など数学的な論理に必要な言葉を適切に使って表現することができる。ド・モルガンの法則を問題解決に活用できる	定期考査 小テスト	定期考査 補充プリント レポート	ノート 問題集 振り返りシート レポート 発表
	データの分析	度数分布 代表値 四分位数と四分位範囲 分散と標準偏差 データの相関 データの外れ値 仮説検定の考え方	a:平均値、中央値、最頻値について理解する。分散や標準偏差について理解する。相関係数の意味を理解し、相関係数を求めることができる。 b:整理した表、図、値などの意味を理解し、そのデータの特性や法則性を的確にとらえることができる。 c:目的に応じて適切な統計量が求められるようにグラフを作成することができる。			
3学期	数学Ⅰの復習	数と式 2次関数 三角比	a:過去に学習した分野の公式や定理を確認し、うまく使いこなすことができる。 b:日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり考察したりすることができる。 c:復習問題の問題演習に対して、主体的に取り組むことができる。	定期考査 小テスト	定期考査 補充プリント レポート	ノート 問題集 振り返りシート レポート 発表

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度